

## 倫理観

四国支部長 北野 尚夫



いつの間にこんな殺伐とした世の中になったのだろうか。世界もそうだが、私たちが住んでいるこの日本が大きく変わってしまった。

子供のいじめや自殺の多発。家族による犯罪の多さ。命の尊さが余りにも軽んじられている。過去数十年の道德教育がどうだったのか、親の育て方がどうだったのか、よくは分からないが、年代の古い人間にとってやりきれない思いである。

映画で武士道をうたった時代劇がヒットしたり、「国家の品格」がベストセラーになるのも、今の日本がどこかおかしい、歪んでいる、間違っていると気づいている人が多いからではないだろうか。昔を思い出そうとしているからではないだろうか。

命の尊さを考えれば、思いやりにつながる。企業倫理で言えばCSRの基本の部分、悪いことをしないという非常に単純なことが最終的に重なってくる。悪いことをしない、進んでよいことをしようという気持ちと命を尊く感じ大切に作る心、人を愛する心は同じ根幹を持つ。社会にとって悪いことが会社にいいことの筈がない。

一見会社思いの「見つかって処罰されると会社が大変なことになる」という考え方も、進んでよい事をしようという前向きな意識がなく人間愛もない。それは企業以前に人間として胸の中にあるべき倫理観に欠けている。そういう人の多い企業は結果的に多くの犠牲者を出す場合がある。社外にも、社内にも。

私たちの業界もまさに大事故大悲劇の直前であったかも知れない。今やっと行政の力を借りて正しい倫理観を持てるようになったばかりだ。車体工業会は、一般の方には余り知られていないマイナーな団

体である。それが今回、名前だけは多少全国区になった。世間からも監視していただけるのを、有難く思うべきではなかろうか。

四国支部についていえば、地域会員が中心の19社による小さな組織である。年2回の主たる行事（支部総会・工場見学会）以外は他に目立つ活動は行っていなかったが、2年前からは不正改造防止のための研修会が定例会議となり、その都度講演会を開催し、四国運輸局自動車技術安全部の方にお世話になっている。また、会員相互や事務局と会員との連絡も頻繁になり、組織としてよい方向へ動いている。少なくとも会員間では不正な改造や整備は、まずなくなったと断言できる。

この先は自動車車体業界全体の正常化が強く望まれる。それに協力し、推進できるのが当工業会である。会員を厳選して会を正しく導くのではなく、多くの車体関連企業に入会してもらうことによって、業界全体を良くする。そのためには車体工業会の信頼性やステータスが高く、誰もが入会したいと思う組織であることが必要だ。

最近、会員企業の名刺に車体工業会会員の肩書きを誰も入れていないのに気がついた。堂々と仕事をして、誇りを持ってJABIAをアピールしたい。ディーラーからも会員なら安心して仕事を任せられると言われたい。この肩書きを誇りに思う時期がすぐに訪れることを信じて疑わない。地域会員の是非の論議は続くが、四国支部では毎年1社以上支部の新会員を増やし、企業倫理の輪を拡げて行きたいと考えている。

(株)タダノ・執行役員)